

学校法人 河原学園 未来高等学校 R7年度年間指導計画

教科	芸術	科目	美術	美術Ⅰ	学年	2年次	単位数	2単位
教科書	日文 高校生の美術1			副教材	なし			
レポート 添削指導	6通	スクーリング 面接指導	8回	メディア 視聴票	4通	試験	2回	
指導 目標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中での美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。							
No	日付	レポート 提出日	単元	学習内容	面接 回数	メディア(NHK高校講座)		
1	4月12日	5月22日	「身近なものを描く」 選択題材 「人物を描く」 自分を見つめて描こう	身近なものの特徴や美しさなどを基に、形や色彩、質感などの効果を考え、構想を練ったり、鑑賞したりするとともに、身近なものの特徴や美しさなどの全体のイメージを捉え、線の強弱や線の具などの特性を生かして表す。自己の内面を見つめ、今の気持ちや性格など自分らしい印象などを基に、構図や表情などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、構図や表情、色彩の効果、全体のイメージなどを捉え、絵の具などの特性を生かして表す。 ○「視点と表し方」「想像を形に」	2	1 アートって何? 2 美術館 3 観賞		
2	5月22日	6月19日	「日本美術」 日本の美術のよさや特質を味わおう	屏風や掛軸、絵巻などのよさや美しさ、日本の美術の表現の特質、美術文化の継承と創造について考え、日本の美術の独自の美意識や自然観、制作の知恵などを理解し、金雲や空間、構図、色彩などの効果、全体のイメージや作風、様式などを捉え、鑑賞する。 ○「浮世絵版画の魅力」「版で表す」「墨表現の可能性」「漫画の表現」「折りの形」	1	4 色彩と感情 5 光と影 6 人を描く		
3	6月19日	7月17日	「立体表現の魅力」 立体表現のよさや特性について考える	作品がつくられた時代や場所、材料や技法、つくった人の思いや願いへの理解を深め、立体作品の質感や量感、重心など、また、立体作品が置かれた空間の印象などのイメージを捉えて、立体表現のよさや特性について考える。 ○「大きさを意識して」「塑造で表す」「彫って表す」「抽象彫刻で表す」「身近な素材と立体表現」「折りの形」	1	7 風景を描く 8 建築と美術 9 日本美術		
4	7月17日	10月29日	「デザインの世界」 デザインの広がりを考える 「生活を彩る模様」 模様をデザインしよう	自然物などの形や色彩の特徴や美しさ、用いる場面などを基に、形や色彩の構成などの効果を考え、模様の構想を練ったり鑑賞したりするとともに、自然物などの形や色彩の特徴や美しさ、構成などの効果、全体のイメージなどを捉え、材料や用具の特性を生かし、計画を基に模様をデザインする。	2	10 複製 11 写真と絵画 12 アートとジェンダー		
5	10月29日	11月27日	表現・鑑賞 デザイン 「ポスターで伝える」 「キャラクターのデザイン」	形や色彩、写真やイラスト、文字などによる伝達効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりすることで、ポスターデザインする。キャラクターの形や色、性格を表すポーズや持ち物などの効果、伝達したい情報やイメージなどを捉え、材料や用具などの特性を生かしてキャラクターをデザインする。	1	13 テクノロジー 14 文字 15 プロダクトデザイン		
6	11月27日	1月23日	表現・鑑賞 映像メディア 表現 「写真で表す」 学校生活を表す情景を撮ろう	被写体の印象や瞬間の美しさなどを基に、構図やシャッター速度などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、写す角度や配置、拡大や縮小、光や影、時間の静止などの効果、全体のイメージなどを捉え、カメラの特性を生かして、学校生活で心に残る情景を思いが伝わるように表す。 ●資料「写真の基礎」	1	17 映像 18 社会とアート 19 アートとSDGs 20 これからの美術		
学習の成果に係る評価規準								
【知識・技能】 ・形や色彩、明暗、質感などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、身近なものの特徴や美しさなどを全体のイメージで捉えることを理解している。 ・意図に応じて絵の具などの特性を生かすとともに、線の強弱など表現方法を創意工夫して表している。 ・形や色彩、光、空間、動きなどの性質及びそれらが人の感情にもたらす効果や、映像作品の印象や特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解している。								
【思考力・判断力・表現力】 ・感じ取ったことや考えたことなどを基に、写真表現の特性を生かして主題を生成し、構図や光、シャッター速度などの写真表現の働きについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 ・写真表現の特質や表現効果などを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。								
【主体的に学習に取り組む態度】 ・身近なものの特徴や美しさなどを観察し、感じ取ったことや考えたことを基にした表現の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。 ・作者の表したい身近なものの特徴や美しさなどについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。								
○上記の評価規準に基づき、レポート及び課題等の提出物の状況、スクーリングに取り組む姿勢及びスクーリングに基づく成果、前期・後期2回の試験結果を総合的に判断して、評価を行う。 ○【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学習に取り組む態度】の3つの観点ごとに、それぞれ上位からA、B、Cの三段階で評価を行い、その観点別評価に基づき、総合的な評価を5段階（最上位を5とし、最下位を1とする）で評価する。								
単位の修得の認定に関する基準								
観点別評価に基づいて総合的に評価された5段階評価のうち、5～2の評価を受けた者に対して、科目に配当された単位数の修得を認める。								